

現代日本学社会分析研究演習 I／現代日本学演習 III

現代日本における社会問題の分析

田中重人 (東北大学文学部教授)

3年生・大学院生対象：2025年度2学期 <金4> 605 演習室 Google Classroom クラスコード 76zzqpv

1 『講義概要』記載情報（一部）

- ◆ 到達目標：社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する。
- ◆ 目的・概要：日本における社会問題について、各自の関心に基づいて問い合わせを立て、資料・データを収集・分析し、批判的思考と議論を通じて答えを導くプロセスを体験する。受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながらレポートを作成する。
- ◇ 参考書：佐藤望ほか (2020) 『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』(第3版) 慶應義塾大学出版会。
- ◇ 成績評価方法：授業中の課題 (30%)、途中経過等報告と討論での発言 (30%)、期末レポート (40%)

2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 論文に書く内容を決めるまでのプロセス
- 意味のある問い合わせと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

3 授業予定

- (1) イントロダクション [10/3]
- (2) 第1講 文献データベースの利用 [10/10]
- (3) 第2講 引用をたどる [10/17]
- (4) グループ発表準備 [10/24 (休講)]
- (5) 論文について発表 (1) [10/31]
- (6) 論文について発表 (2) [11/7]
- (7) 第3講 中心的情報源 [11/14]
- (8) 第4講 専門用語と理論体系 [11/28]
- (9) 第5講 資料の評価と活用 [12/5]
- (10) 第6講 アイディアの創出 [12/12]
- (11) 第6講 アイディアの創出 (つづき) [12/19]
- (12) 第7講 議論を組み立てる [1/9]
- (13) レポート提出期限 [1/16]
- (14) 第8講 價値ある研究のために [1/23]
- (15) 口頭試問 [1月下旬]
- (16) レポート改訂版提出 (任意) [2/12]

※ 受講人数などの都合で授業計画を変更する可能性があります。

4 注意事項

- 連絡や課題提出は Google Classroom で行う予定です。もし使えない場合には、教員まで連絡してください。
- 授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります (その場合、受講者の都合にあわせて日時を設定)。

5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている学習、研究、資料整理、スケジュール管理の方法

6 レポートのフォーマット

この授業では、長い文章を書くことは要求しない。期末レポートでは、つぎのような形式で、必要な情報を短くまとめるここと (通常、A4 用紙 2 枚以内)

- 問い合わせ
 - その背後にある大きな問い合わせ
 - 問い合わせの学問的背景
 - 問い合わせの社会的意義
- 答え
 - 必要な予備知識と前提
 - 答えの根拠
 - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問い合わせを発展させる可能性
- 文献

問い合わせと答え、それを導くための根拠 (証拠) の重要さについては、山内・戸田山 (2022) など参照。

〔戸田山〕問い合わせを探索したうえで重要な問い合わせを明確に立てる。それに対する自分の、今のところ最善の答えを出す。ただ単に答えを出すだけではなくて、きちんと証拠によってサポートされたものを、他の人にも理解可能なかたちでまとめる。他の人はそれを読んで批判をして、議論をしたうえで、さらに良い答えに至る。以上のための最適の手段だからこそ、学生のみならずみんなが論文の書きかたを身につける必要があるわけです。研究者ではない人にとっても論文が書けることはすごく大事なことですし、世の中を良くしていくうえで、広い意味での論文はたいへん役に立つ。

(山内・戸田山 2022) [強調は引用者による]

7 文献検索について

→ 論文検索方法 (簡易版)

8 宿題

自分の興味に合った論文を一つ選び、なぜその論文に興味を持ったかを簡単に説明

- オンラインで読める論文であれば、その URL (あるいは DOI など) を書くだけでよい
 - そうでない場合は、論文全体をスキャンしたもの (あるいは写真) も提出
- 来週の授業で 2-3 人のグループを決め、大学祭以降の授業で論文の内容についての発表をおこなう。

文献

山内志朗・戸田山和久 (2022) 「論文を書く力」は、一生もののスキルです！」(対談) NHK 出版『本がひらく』2022 年 4 月 12 日 07:00
<<https://nhkbook-hiraku.com/n/n58d920978fb6>>.

現代日本学社会分析研究演習 I／現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

論文検索方法 (簡易版)

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] Google Scholar 等で論文を探すための最低限の知識

1 Google Scholar をとりあえず使ってみる

<https://scholar.google.com> で、Google が蓄積しているオンライン情報のうち、論文等の学術情報に特化した検索ができる。ただし、学術的でない情報もかなり入っているので注意。

2 論文本体の入手

2.1 電子版

無料で公開されている論文の場合、リンクをたどるとそのまま論文本体 (PDF ファイルなど) がダウンロードできることが多い。

有料の雑誌などの場合は、「学認」(GakuNin) でログインすると読めることがある → <https://www.library.tohoku.ac.jp/search/e-contents.html> 参照。

「学認」でアクセスできない場合でも、大学内あるいは VPN 接続で読めることがある → <https://www.tains.tohoku.ac.jp/contents/remote/vpnstudent.html> 参照。

日本の古い雑誌等は、国立国会図書館デジタルコレクション <<https://dl.ndl.go.jp>> で閲覧できる場合がある。利用者登録を済ませて ID を取得しておくとよい。

2.2 プレプリント等

大学等の研究機関での研究成果を集めてインターネット上で公開する「機関レポジトリ」が整備されつつある。また、研究者個人や学会のサイトで論文のファイルが公開されていることが多い。こうしたファイルを公開するための「プレプリント」と呼ばれるサービスも増えている。

このようなファイルを見るときは、雑誌に掲載された論文と同一のものであるか 注意すること。しばしば、投稿前の原稿や、出版後に加筆したものを収録していることがある。

2.3 冊子体の所在

東北大学附属図書館のサイト (<http://www.library.tohoku.ac.jp>) で雑誌を検索する。ISSN がわかる場合は、それで調べるとよい。雑誌名で検索するときは、詳細検索で検索対象を「雑誌」に限定したり、フィールドを「書名 (完全形)」に限定したりすると、ヒット数を減らせる。

「学外」にチェックを入れておくと、東北大学図書館内にない場合には、学外まで所蔵を検索してくれる。国立情報学研究所 CiNii Books (<http://ci.nii.ac.jp/books>) も使える。

- 東北大学図書館本館にある → 借り出し (たいてい 2 号館にある)
- 東北大学内の研究室など → きてみる (貸してもらえないこともある)
- 他の大学図書館など → 複写または貸借 (附属図書館 MyLibrary を利用)

3 学術論文 (的な文章) の見分けかた

- 数ページ程度以上の長さ
- 抄録 (abstract) がついている
- セクションがいくつかにわかれている
- 注がついている (ページ脚注または本文末)
- 末尾に文献リストがある

Google Scholar では、他の文献から参照されている回数 (被引用数) がついていれば、学術的な内容である可能性が高い。

4 発展編

田中重人 (2018) 「論文をさがす」 (現代日本論講読 授業資料) <<http://tsigeto.info/2018/readg/r180420.html>>

田中重人 (2018) 「論文をさがす (つづき)」 (現代日本論講読 授業資料) <<http://tsigeto.info/2018/readg/r180427.html>>

現代日本学社会分析研究演習I／現代日本学演習III「現代日本における社会問題の分析」

第1講 文献データベースの利用

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 先行研究の探索

1 書誌情報について

文献を特定するのに必要な情報を「書誌情報」(bibliographical information) という：

- 書籍の場合、著者名／出版年／表題／出版社
- 雑誌の場合、著者名／出版年／論文表題／雑誌名／巻,号／掲載ページ (通常は雑誌名だけで特定できるので出版社は不要であるが、CiNii Books などでたしかめる)

論文でこれをどのように表記するかは、自分の分野の代表的な雑誌等のルールを確認しておくこと。

- 現代日本学研究室で使っている方式: 日本学研究会『学際日本研究』第4号「投稿規定」(84-85頁) <<https://hdl.handle.net/10097/0002003172>>
- 社会学の場合: 日本社会学会『社会学評論スタイルガイド』(第3版) 第4章 <<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/document/>>

URLなどを示す場合は、つぎのような優先順位で考えるとよい：

- DOI (<http://doi.org>) や Handle 識別子 (<http://hdl.handle.net>) があればそれを書く (武田 2012)
- 複数の URL がある場合は、“Permalink”などと指示されているものか、なるべく短いものを選ぶ
- URL に #, ?, & が入っている場合は、そこから先を取り除いてみる

電子化された (インターネットで公開された) 文献は、従来の (印刷・製本された) 文献とは若干あつかいが異なる。

- 削除・変更されることが多く、その履歴がわかりにくい → 自分の見たバージョンをダウンロードするか、<http://web.archive.org> などのアーカイブ (魚拓) サイトに登録しておくとよい
- 特定するために何の情報が必要かが確定しにくい。著者名や日付が不明であることが多い。

2 先行研究を探すということ

2.1 探す対象

- 論文・書籍 (研究成果をまとめた文章)
- 資料・データ (研究の対象となるもの)
- 研究者・研究機関
- 研究プロジェクト (研究資金の流れ)
- 雑誌・データベース

2.2 探しかた

- 人に聞く
- 入門書・概説書・展望論文、一般向け雑誌、ウェブサイトなど
- 芹づる式
- 白書、データブック
- 各種データベース

一度の探索で網羅的に情報が集められるわけではないので、ふだんからアンテナを立てておくことが大切である。

3 論文・書籍のデータベース

研究成果は論文や書籍として発表される。

- 国立国会図書館サーチ <<https://ndlsearch.ndl.go.jp>>
- CiNii Research <<https://cir.nii.ac.jp>>
- CiNii Books <<http://ci.nii.ac.jp/books/>>
- Web of Science <<http://webofknowledge.com/wos>> (Institutional Sign In から “Japanese Research and Education (GakuNin)” を選び、東北大IDでログインする) → <http://tsigeto.info/2018/readg/r180427.html> など参照
- Google Scholar <<http://scholar.google.com>>

そのほか、図書館のホームページ <http://www.library.tohoku.ac.jp> から「資料を探す」→「データベース」タブを開いてみるとよい。

4 資料・データを探す

研究対象による。自分の研究分野の入門書や、代表的な研究機関のサイトなどを調べるとよい。

- 国立国会図書館ほか「ジャパン・サーチ」<<https://jpsearch.go.jp>>
- 国際日本文化研究センター「日文研データベース」<<https://www.nichibun.ac.jp/ja/db/>>
- 国立国語研究所「データベース・コーパス・資料」<<https://www.ninjal.ac.jp/resources/>>

5 研究者・研究機関を探す

大学などでは、所属する研究者（教員・研究員・博士課程学生などをふくむ）の研究成果の情報を収集している。これを集積したデータベースが公開されており、そこから各研究者がおこなった調査の情報を得ることができる。

- 科学技術総合リンクセンター J-Global (科学技術振興機構) <<http://jglobal.jst.go.jp>>
- Researchmap (国立情報学研究所) <<http://researchmap.jp>>

また、研究者が個人的にウェブサイトを開設していたり、SNS等で情報発信していることが多い。論文等について質問したい場合、著者本人に問い合わせてみるとよい。雑誌論文には著者所属やメールアドレスなどが書いてあることが多い。また上記の J-Global などでも連絡先を調べることができる。ただし、問い合わせの前に、公開されている情報をできる限り集めてから。

6 研究プロジェクトを探す

多くの調査研究は科学研究費補助金(文部科学省または日本学術振興会)などの助成を受けておこなわれているので、その研究課題のデータベース中に調査の情報がかなりある。

- 科学研究費補助金データベース(国立情報学研究所) <<http://kaken.nii.ac.jp>>
- 日本の研究.com <<https://research-er.jp>>

7 雑誌・データベースを探す

各研究分野には、通常、その分野の中心となる学術雑誌がある。こうした雑誌については、新刊情報をチェックするとともに、過去にさかのぼって読んでおく。

雑誌がつくられる過程(特に掲載する論文をどのように決めているか)に注意すること。

また、分野ごとにデータベースが作られていることが多い。附属図書館によるリスト <http://www.library.tohoku.ac.jp/search/database.html> など参照。

8 来週以降の予定

各自の選択した論文に基づいてグループを決め、その各グループで、論文の内容について議論します。

10/31, 11/7 の2回で、論文について発表します。

- 各自、自分の選択した論文について資料をつくる
- 授業開始時までに Google Classroom のストリームに投稿しておくこと

当日の発表手順は次の通り：

- 説明は、グループ内のほかの人がおこなう(2分)
- その後、論文を選択した本人が追加説明(1分)
- 全体で討論(10分程度)

報告すべき内容は次の通り：

- 論文の「問い合わせ」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問点や批判など
- 内容を発展させる方向性

文献

武田英明(2012)「DOIって何?」(図書館総合展2012版) <<https://www.slideshare.net/takeda/doi2012>>

現代日本学社会分析研究演習I／現代日本学演習III「現代日本における社会問題の分析」

第2講 引用をたどる

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 引用・被引用関係を利用した文献探索

1 発表予定文献 [授業後に順番を変更]

1.1 グループ3 (10/31 発表予定)

- 大木龍之介「越境する『花とゆめ』：羅川真里茂と椿いづみの少女漫画によるジェンダー・トラブル」『JunCture: 超域的日本文化研究』第8号 194-208頁 (2017年) doi:10.18999/juncture.8.194
- 大橋崇行「文学の通俗性と「文豪」：明治・大正期における小説家のイメージ形成とその受容」『成蹊國文』第55巻 28-39頁 (2022年) doi:10.15018/00001292
- 真田和美「三島由紀夫作品研究」『たまゆら』第21巻 1-6頁 (1989年) <https://hijiyama-u.repo.nii.ac.jp/records/1194>

1.2 グループ1 (11/7 発表予定)

- 市川純「日本のサブカルチャーにおける「ゴシック」の流入：その概念的拡張過多の問題」『學術研究：英語・英文学編』第57巻 45-64頁 (2009年) <http://hdl.handle.net/2065/29715>
- 藤原萌「異なる恐怖の要因：Jホラーにおける「ニューメディア」と「オールドメディア」の比較」『人間・環境学』第33巻 81-96頁 (2024年) <http://hdl.handle.net/2433/293507>

1.3 グループ2 (11/7 発表予定)

- 武田竜太「日本の先住民族・アイヌと「ウポポイ」」『共生科学』第15巻 69-85頁 (2024年) doi:10.32137/kyosei.15.0_69
- 山本龍治「牡鹿半島における捕鯨業の変遷と鯨類資源の活用」『日本海水学会誌』第75巻 3号 141-144頁 (2021年) doi:10.11457/swsj.75.3_141

2 課題

下記のことを調べる。

- 各雑誌の出版社とその出版目的、歴史など
- 各論文の性質 (普通の論文か? 査読はあるか? など)
- 印刷版の所在

3 宿題: 各自の論文で参照されている文献の同定 (11/11まで)

自分の選んできた論文で参照されている文献を、すべて同定する。ここで「同定」というのは、その文献が入手できる状態になること (図書館の所蔵やオンライン文献のURLがわかる、など) を指す。実際に入手しなくてもよい。

簡単には同定できなかったものについて、つぎのことをまとめる：

- その文献の書誌情報
- 同定に苦労した (または同定できなかった) 原因

現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

第3講 中心的情報源

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 研究のための中心的情報源を見つける

1 大きな問い合わせ

論文の「問い合わせ」には、その論文中で、根拠を示して「答え」を出さなければならない。そのため、非常に絞り込んだ、小さい問い合わせになる。

一方で、そのような問い合わせは、より大きな問い合わせの一部となっているのがふつうである。

- ある大きな問い合わせに答えていくための、途中段階の小さな問い合わせ
- 範囲の広い問い合わせについて、その範囲を限定した小さな問い合わせ

多くの場合、論文の冒頭で大きな問い合わせを示したうえで、絞り込んだ小さな問い合わせを検討する書きかたがとられる。

課題 1: 各自の論文について、冒頭部分に「大きな問い合わせ」があるか?

2 学問分野

今日の学術研究は、細分化された分野(○○学、○○論など)にわかれています。学会や学術雑誌は分野別に編成されているし、研究者も細分化された教育システムで育つ。

課題 2: 各自の論文は、どの学問分野に属するものか?

たとえば、雑誌の発行元、著者の経歴や所属学会、引用されている文献の傾向などを調べてみるとよい。

3 中心的情報源

ある研究対象や学問分野について調べるには、それについての中心的情報源を把握しておくとよい。

3.1 学会

日本学術会議 協力学術研究団体一覧 <<https://gakkai.scj.go.jp>>

各団体のウェブサイトから、刊行物、学会大会プログラムなどをみるとよい。

3.2 雑誌

学会が出している雑誌については、上記参照。

その他の雑誌（商業誌・同人誌・研究機関刊行物など）は、下記「古典／定番文献」を参照。

掲載論文を数十本程度読んでみるとよい。

3.3 教科書・事典類

多くの分野には、定番の教科書や事典がある（ない分野もある）。くわしい人に聞くとよい。

3.4 古典／定番文献

特定の対象について、しばしば引用される古典的あるいは定番の文献のあることが多い。

- Google Scholar で被引用数 (cited by) を調べることができる。ただし日本語文献は電子化されていないものが多いため、あまりうまくいかない。
- くわしい人に聞く

3.5 その他

それぞれの分野や研究対象によって、特別な位置を占める研究機関、図書館、研究者（集団）のある場合がある。

4 宿題

各自の研究対象（1つ）と学問分野（2つ）について、中心的情報源となりそうなものを、それぞれ1つ以上見つけること。11/14 授業開始時までに Google Classroom ストリームに結果を提出。